

令和三年度 北原区 地域福祉懇談会

令和3(2021)年11月13日(土)
北原公民館 二階大会議室
16時開会

次 第(司会 島田副区長)

開会の言葉(宮澤会計)

第一部 講演会 16時～17時30分

講師紹介 ひとミュージアム 田島 隆(たじまたかし)様
資料執筆者の宮下先生をご紹介します。

講演(宮下健司 先生)

お礼の言葉(区長)

講師退場(区長同道)

閉会の言葉(山岸副区長)

講演詳細

講師 宮下健司(みやした けんじ)先生

演題 歴史から学び、災害に備える

資料 戊の満水(いぬのまんすい)と『令和の大洪水』

(支所発地域力向上事業の一環として、北原区で作成)

(休憩 会場座席一部変更)

事前準備会議開始の言葉(島田副区長)

第二部 来年度支え合いマップ作成のための事前準備会議 17時40分～18時

会議概要説明(区長)

各組より発言

確認・まとめ

会議終了の言葉

災害時住民支え合いマップ作成について事前準備会議 資料

災害時の最優先課題は、すべての命が助かることです。地区の役割は、その住民一人ひとりの行動を支え、全員の安全を守ることが地区の役割であります。

そのために、防災用品や防災施設等の充実、確実な情報提供、防災意識の向上、防災訓練を通じた緊急時の動き等、平時ではおろそかになりがちですが、災害対策のためには、常に心にとどめて置くことが大切であると考えます。

もちろん災害時に個々の住民ができることは限られています。自分の命を救うこと精一杯という状況に陥るのが災害時です。しかし、災害時に自力避難が難しい人に対する思いが心のどこかにあることが、すべての命が助かることにつながると信じております。

そのような意味で、現状では、難しいというご意見もあるかとは存じますが、支え合いマップの作成あるいは、災害時の避難方法の検討は、地区全体の災害準備の課題であると考えております。また、このような作業は手間の掛かる事ではありますが、これを通じて、また、新たな関わり合いが生まれることも多く見聞しております。是非宜しくお願いいたします。

(1) 作成会開催可能性について、各組の現状と現時点での判断

例：組のいくつかの班の参加は難しい。現段階では判断が難しい 等

(2) 開催へ向けての課題とその対策

例：不在が多く、時間調整などの連絡を取りにくい状況がある

アパート住民の中には地域から疎遠になりがちの人が多い 等

⇒作成の必要性を記した文書を区から出し、連絡をしていただく
アパート管理人等に作成、あるいは代替の対策について意見を
いただく 等

(3) 来年度の開催に向けて時期・場所の大枠の決定

年間行事計画(例年)		支え合いマップ作成に向けての計画(案)
4月		回覧(複数回)で意識喚起 開始
5月	ながの獅子舞フェスティバル、子どもふれあい体験教室、ゴミゼロ運動	民生児童委員と評議委員の懇談会 支え合いマップ計画提案
6月	常会対抗野球大会、公民館大掃除消防訓練	参加希望票配布 →中津公民館、北原公民館抑える
7月		アパート管理者等に説明、参加依頼、全面委任など決定
8月	北原夏祭り(盆踊り)	
9月	北原敬老会、自主防災訓練	支え合いマップ説明会 (住自協福祉部会より講師派遣)
10月	北原秋祭り(花火)、ゴミゼロ運動	支え合いマップ作成 (住民地域福祉大会分散会)
11月	地域福祉懇談会	支え合いマップ作成 (住民地域福祉大会分散会)
12月	公民館大掃除・消防訓練	
1月	新年会	
2月		
3月	北原区総会	

※案は、原原案でありますので今後も検討余地が多分にあります。

①民生委員との懇談

上記案で、5月頃に設定しました民生児童委員との懇談会は、全体会に引き続き、各組担当者との懇談会を実施すると考えております。

②支え合いマップの作成

上記案で、10月第2週(～11月初旬)頃とご提案いたします。

③場所について

上町・第五組：中津公民館

第一・第二・第三南・北組：北原公民館

第四組：第四公民館

荒穂組：荒穂公民館

先日いただいたご意見を受け、上記をご提案いたします。

以上について、ご意見をうかがえたら有り難いと存じます。

また、コロナ禍が下火になった時に備え、たくさん アイディアがいただきたい
と思います（御覧置きください）。

1. 触れあいを多くしましょう

リサイクルハウスの積み出し、ゴミゼロ運動は
身近なコミュニケーションの絶好の機会

2. 面白い企画はないでしょうか

拾ったゴミの量比較（行ったこともありました）、困ったゴミ、
組独自の企画、町の中の面白い風景
意見（他人を中傷することのないもの、よろこばしいもの）の発
こんなコトしたら良いのじゃないか アイディア募集
→毎月二つの組が発表、年間3回チャンスがある。

3. 求めようさらなる触れあい

安全パトロール活動（月2回、まだまだ会員募集中）
菊花展をさらに盛り上げよう（丹精込めた菊をさらに多く観ていただくための工
夫はないでしょうか）
神楽保存会の獅子舞（47年続いています。かぶりつきは迫力満点）
子どもふれあい体験教室発表（いまコロナで中止しています）新種目は

4. コロナがなくなれば祭りに参加

夏祭り、どんど焼き、秋祭りと花火
祭りの写真展なんてどうでしょう

5. 第20回で終了した川中島フェスティバルに代わる催し提案

【参考資料】 民生児童委員の皆様からのご意見

1. 調査票・アンケートの現状について

- 提出されていない4割の方々に問題が含まれている
- 支援希望には、幼児・児童の項目に該当しない年齢の人が含まれている
 - －それほど、親にとっては心配で、親が不在の場合の子どもの把握、自分で動けるにしても、どなたかの声かけが必要だと考えている。

2. どのようにこの状況を改善していくか

- 一年目は大枠を作り、班単位の関係の中で、次第に充実していく
- 班単位を中心になる班長の意識・役割が重要になる
 - －複数回なんらかの形で会合を開くなどを通して、頼みやすい関係作りをしたい
 - －定例化された集会や引継ぎ時の申し送りを確実にしていく
- 誰でも参加できる行事を考えたい（中尾山トレッキングなどを行った）
- 南原のお助け隊や本町の全体での取り組みで、雰囲気が変わる
- 家族間の話し合いも大切
- 絶対安全はないので説得しつづけることが大切

3. 支え合いマップの必要性と作成時の問題点

- 昔と違うので、若い人たちには、様々な角度からの丁寧な説明が必要
 - －支え合いマップを作るに至ったいきさつ、共助の必要性
 - －年々状況は変わる－支える人から支えられる人へ
 - －高齢化により隣近所の関わり更に必要になっている
 - －支援必要者調査は常に行い、追加している
- 若い人の貴重な意見が出やすい環境も必要
- 外見からは分からないので、他人からはその内実を知られたくない人もいる
- アパートは仮住まい意識あり、管理も管理会社に任せる状況が増え、つながりなく、区の行事にも参加しない
- 避難場所は災害の種類によっても違う

4. 支え合いマップ作成における情報提供

- 各組の構成員と民生児童委員との相談会なども含めて、必要があれば助言

